

「違ひます」

「そんなら何だす」

「解らなんだら百文貰ひますせ」

「品物は」

「芋莖ずいじの腐つたんだす」

「アノ芋莖の腐つたん、ア、さよか、今度は一兩いきまへう」

「一兩は多い百文にしときなはれ」

「イヤ一兩いきます、今度は私に云はしとくなはれ」

「イヤ宜しい云ふとくなはれ」

「一寸六ツケ敷おまつせ、身の丈けか一間程で四ツ足で尾が有つて顔が長ふて角が二本有つて鼻に鼻木と云ふて籐とうの輪が這入つて有つて、シー、と云ふとモーウと啼くもん何んだす」

「フム、解つてます、一兩貰ひます」

「モシ品物を云ひなはれんか」

を貰ふのに、他の人に極りが悪いサア、云ふとくなはれ」

「云ひまつせ、今度は丈が二丈五尺程で顔が四斗樽程有つて目が一ツで鼻が無ふて、口が耳まで切れて牙が有つて角が一本生へていて三本足で暗の晩にピョイ〜と飛んで歩いて居るもの何」

「今度は大分六ツケ敷しい、モウ一遍云ふとくなアれ」

「モウ云へしまへんで宜う聞いてとくなはれや、丈は二丈五尺程で顔が四斗樽程有つて目が一ツで鼻が無うて口が耳まで切れてゐて牙が有つて角が一本生へていて三本足で暗の晩にピョイ〜と飛んで歩いて居るもの何」

「鳴聲は」

「貴郎鳴聲を云ふたらいかんと云ひなはつた」

「甚い事を云ふたなア、十兩やで、コラ仕掛の負やがな仕方がおまへん」

「そら牛だつしやろうがな」

「モシ、解りましたか、貴郎蒙いお方やな、今度は五兩いきまへう、モウ一遍云はしとくなはれ」

「イヤ宜しい云ふとくなはれ」

「矢ツ張り丈が一間程で四ツ足だす、尾が有つて顔が長い角がないかわりに耳が立つてます、ドウと追ふと、ヒ、ンと鳴くもの何」

「五兩貰ひますわ」

「モシ錢を先に取らんと品物を云ひなはらんか」

「解つてますがな、そら馬だすがな」

「本當に感心しました、馬だす、解りますか」

「解りまへいでかいな、鳴聲を云ふたら子供でも知つてますがな」

「ア、さよか、今度は十兩いきまひよう、モウ一遍云はしとくなはれ」

「云ふのは宜しいが今度は鳴聲を云ひなはんや、お金

「解らなんだら十兩もらひます」

「モシ品物は」

「品物は化物だす」

「化物や、モシ化物はあきまへん」

「何化物があかん、能う云ふたなあ、汝芋莖きんぎょの腐つたんで錢を取つたやないか、コラ能う聞けよ、私は大阪の人間ぢや、其様な事を知らんと思つて居るのか間拔奴モウや、ヒンと云ふたら其れに乗りやがつて此處まで釣つてやつたんぢや、解らんのか、汝の様な奴が此の船に乗つてやがるので段々此の船が淋しうなるのぢや能う面を見覚えとけ、此後こんな事をしやがつたら承知せんぞ、後學の爲に化物の鳴聲を教へといてやるぞ、カモカーと鳴くわい、金が欲しいのか買物の残りか此處に小判で五十兩有るね、拜んで置け、ヒョットコ奴、オイ船頭はん、小便は何處でするね」と艦へ出て來て小便をしますと(ドボン)